

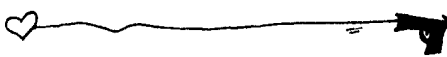
## 97年度 高校生のための環境講座」を終えて

(代表 竹本 伸)

私たち「宇宙船地球号の会」が、この「高校生のための環境講座」に取り組んで今回で3回目となる。過去2回については主催が広島市青少年センターだったので、私たち独自の取り組みとしては、今回が初めてであった。

元々、代表の私の発案と青少年センターの高校生講座という企画がうまく結びついて実現した講座であったが、計画から実施まで時間も経費も結構かかる内容ただけに主催者であるセンターが高校生講座を縮小せざるを得なくなり、この環境コースを廃止することになったと聞いた時はもう実施することは無理だと思ったし、事実、会の中でも一度はしないことを決定していたのである。

それが一転して実施することになった最大の理由は、会員の中に高校生講座をするのならスタッフとして手伝いますよと言う声を何人もの方からいただいたからである。会の案内の中に「事務局に参加できなくても個々の行事のスタッフなら出来るという人はご連絡下さい」と書いたところ、この「高校生講座」に集中的にそのような声をいただいた。前年度までのような公共的な機関の裏付けなしに行くことへの不安はあったが、これだけ言っていたのにやらないというのでは会として会員の信頼に関わるのではないかと、しかし私たちのような小さな会で費用をどうするのかといったジレンマの中で、最終的には「日本財団」からの助成が決定したことがスタートのピストルとな



った。後はとにかく、スタッフとともにやるだけだった。だいたい当初の予定通りに実施できたが、具体的な細案は結構自転車操業的で、しかしせば詰まった時こそ思わぬようなすてきなアイデアがでたりして、終わってみると結構内容的にも一つのサンプルとして提示できるような濃いものが出来たのではないかと、いささか自画自賛的であるが、そういう手応えを少し感じている。

地球号としては、結局、97年の後半は、この行事にかかりきりになったが、それだけのことはあったのではないかと考えている。第一に、高校生というこれからの社会を担う若者たちと一緒にこの講座を実施できたこと、そして彼らの生の声を聞くことが出来たことである。自分たちの講座によって参加した高校生の意識を変えたなどおこがましいことを言うつもりは毛頭ないが、環境問題に関

心を待つ若者たちにそうしたことを考える場、話し合う場を設定したことは認めてもらえるのではないかと思う。また、彼らと話す中で、そうした場を求めている若者が決して少なくないことを知っただけでも、私たちには大きな収穫で

あつ  た。

また、第二にスタッフとして参加してくれた方々とのつながりが出来たことは、会として第一の理由と同じくらい意味のあることであった。地球号のミーティングといえは恥ずかしながら四~五人程度がせいぜいであったところが、一挙に倍増、時には10名越えることもあり、気のいい仲間との打ち合わせはそれ自体が毎回楽しいものであった。そして、その多くの方が、講座終了後も会に関わってくれているのは本当にうれしいことである。

昨年あれだけ実施するかどうかで悩んだのに、このまとめをする段階ではもう来年度も実施する前提で話が進んでいる。こういう内容のものは学校がすべきか私たち市民団体がするのがよいのかという論議はあるだろうが、この講座を通して一番学んだのは私たちスタッフではなかったらうかと感じ、またこの講座の趣旨であるこれから社会を担う世代に環境のことを考えてほしいと思っているということを考えた時、十分ではないにしてもそれなりの意味はあったのではないかと、少なくとも参加したみんなの中に何か残るものはあったのではないかと考えている。地球号」として、これから環境問題の解決に向けてますます若い世代の果たす役割が重要であると認識し、一市民団体としてそうした世代とつながっていきたいと考えている以上、この実践を大切に、何らかの形で継続していきたいと考えている。



よろしく!

# 講座 (各回) の学習内容の紹介

## 第1回 : 9月28日(月) 18:00 ~ 20:00 『オリエンテーション』

いよいよ1997年度の「高校生のための環境講座」が始まった。これから全10回、約2ヶ月の間、広島市周辺の高校に通う生徒が集い、環境問題に関する学習を行う。

第1回目の主なプログラムは以下の通りであった。

1. 代表による開講のあいさつ
2. 自己紹介 (名刺ゲーム)
3. 先輩からひとこと (1995年度の受講生・山谷真理子さん)
4. ダイオキシンについて (クイズ含む : 川口さん)



自己紹介のプログラムでは、一人一人ただ単に発表するのも面白くないので、アイスブレイクを兼ねて名刺ゲームを行った。やり方は以下の通りである。

1. 1枚の用紙 (= 名刺) を4等分するよう、折り目をつける。
2. 左上 左下 右上 右下、と番号をふり、  
この講座に参加した理由  
環境問題で今最も関心のあること  
今自分が夢中になっていること  
この講座でどんなことをしたいか? 何を期待しているか?  
について、それぞれが自由に思うところを書く
3. 部屋の中を徘徊しながらランダムに相手 (1対1) を決め、まずは握手。
4. それぞれが用意した“名刺”を相手に見せながら、相手に聞きたいことを質問。
5. 説明者 質問者で交代して、4.を行う。
6. 握手をして“名刺交換”は終了。次の相手を探す 3.以降を繰り返す。



実際には受講者の高校生に加えてスタッフも加わり、にぎやかかつなごやかな雰囲気の中に名刺ゲームは行われた。

続いて、95年の受講生である山谷さんを囲んで、受講生同士ざっばらんな話し合いの場が持たれた。一足先に環境問題に関心を持ち、環境関連の進路を歩みつつある山谷さんの話には、年齢が近いこともあり、受講生たちも興味を持って耳を傾けていた。

最後に、地球号の 歩「環境辞典」事務局長の川口さんから、ダイオキシンについて説明を受けた。クイズやOHPをまじえてのまじめな話であったが、ダイオキシンがきわめて猛毒な物質であること。ダイオキシンは、実は身近に存在しており、それは自分たちの物質的に豊かな生活の結果 (大量生産・大量消費・大量廃棄社会) 発生していること。特効薬的な解決方法は存在していないこと。などを聞いて、受講生たちはさすがにショックを受けていたようであった。

### < 受講生の感想 >

ダイオキシンに関心があったので、川口さんの話はとても勉強になった。  
眠かった。内容が濃い。



ダイオキシンを出さないためにゴミを分別して、出さないといけななと思った。私の学校は、とりあえず紙とプラスチックで分けてゴミを捨てています。家でも気を付けて 別して捨てたいと思います。

環境に対してできることがないかもしれないというには、かなりショック。

微量で多くの人が殺せるダイオキシンの恐ろしさがよく分かった。また、後の地球がどうなるか不安になった。

ダイオキシンの恐ろしさが分かった。

自分たちには何もできず人間が減びるとというのがショックだった。

けっこう知っているつもりだったが、けっこう知らないことが多かった。例えばダイオキシンは、どのくらい発生しているのか、とか。

オゾン層を破壊するフロンガスがまだ全て到達していないのに、もう大きな被害がでています。全て到達することを考えると、本当に恐ろしいことです。私たちが地球で暮らしている限り、地球にもっともっとやさしく接すべきだと感じました。

とても難しい話だったけど、ダイオキシンという物質が恐ろしいものだと思います。ダイオキシンというもの自体あまり聞いたことがないので、とてもびっくりしました。オゾン層を破壊するフロンガスのあと90%はいつ地球に影響を与えるのか気になったので教えてください。

特にダイオキシンのこととか、有機塩化炭素のことをよく教わりました。勉強になりました。

自分の知らない所でどんどん自然が破壊されていることにとってもびっくりしました。まずは、もっと自分に身近なところから少しずつ実行していけたらいいなと思いました。

ダイオキシンの話が、なんかびっくりした。

ダイオキシンは恐ろしかった。しかし、もっとこんな話が聞きたい。

ダイオキシンのことについてこんなに恐いものかと分かった。

最近、ダイオキシンのことがよく書いてあるけど、ここまで強い毒とは知らなかった。

ダイオキシンは、絶対に無くさなくてはいけません、1人1人がもっと自覚をしなくては、なにも始まりません。

今、話題のダイオキシンはちょっとだけで何万人という人を死に追いつめるというのは、すごく恐いものだと思います。ゴミの分別をもっとしっかりしたいと思います。

ダイオキシン1gで1万人をも苦しめることが出来るんだということに驚いた。

## 第2回 .10月12日(日) 9:30~14:30 『ビーチクリーンアップ in 宮島』

第2回目のプログラムは、「ビーチクリーンアップ in 宮島」。これは、宇宙船地球号の会が、92年春より年2回(春・秋)行ってきた海岸ゴミの調査活動であり、高校生講座はこれと共催の形で行われた。

ビーチクリーンアップとは、ひとことで言うと海岸ゴミの調査である。この方法は宇宙船地球号の会独自のやり方ではなく、世界的に標準化された海岸ゴミの調査方法で、現在、日本全国はもとより世界各地で実施されている。宇宙船地球号の会では、広島市や周辺の住民にも知名度があり、身近な海岸といえる宮島の包が浦を調査地点に選んでいる。



「ゴミを合って数える」という非常にアバウトな調査方法ではあるが、定時・定点観測を継続していくことにより海岸ゴミの経年変化が明らかになる。また、他の調査地点と結果を比較することにより、調査地点の特徴が見えてくる。など、その効果も見逃せない。

以下に簡単に方法を説明する。

1. 調査する海岸(多くは砂浜)に、調査者が両手を広げた間隔で立つ
2. 左右の3人で1グループを作り、グループ間には波打ち際まで境界線を引く
3. 收拾時間は30分、陸側から波打ち際の間、グループ境界内に落ちているゴミを全て拾う
4. ゴミを種類別に分類し、それぞれの個数を数える

5. 種類別の各個数を調査用紙に記録する

6. 調査結果を集計 / 分析する

宇宙船地球号の会では「ゴミの処出まで...」という視点から、調査結果を官庁をはじめ関係諸機関にも公表している。原因の特定できるものはデータの提示により、対策実施に向けて参考資料の役割を担い、原因の特定できないものは引き続き調査を継続することにより原因究明に向けて努力している。



調査当日は朝から快晴の天気で、気持ちよくゴミが拾えた。受講生たちも、海岸ゴミに集中して拾ってくれたようだ。包が浦は宮島町の大切な観光資源であるので、地元の人たちによって定期的に清掃が入る本来ならきれいな海岸である。たしかに、遠目にはきれいに見えるのであるが、実際ゴミを拾ってみると本当にたくさんのゴミが落ちていたことに驚く。受講生たちもそのへんは皆一様に感じていたようだ。



30分ほどの楽しい? ゴミ回収を終えた後、たくさんのゴミを持って建物に移動。それぞれ回収グループに分かれてゴミの分類・集計作業を行った。ゴミの量が膨大なので、思いのほか時間がかかる。それでも何とか時間内に作業は終了し、集計結果を表とグラフにまとめることができた。



**第3回 10月16日(木)18:00~20:00 広島のごみ問題について**

講師:宮島工業高校 島本 先生

第3回目のプログラムは、「広島のごみ問題について」であり、講義中心の学習形態であった。講師は、宇宙船地球号の会会員である中川さんと、県立宮島工業高校で地道に環境教育を実践しておられる島本先生が務められた。中川さんからは、広島のごみ問題に関する一般的なお話があった。島本先生からは、自身で撮影され資料化された瀬戸内海の問題に関する写真を中心にお話があった。

第2回目の「ビーチクリーンアップ in 宮島」のプログラムにおいて、実際にゴミ拾いを体験してみることに、受講生により具体的にゴミ問題へ取り組む意識を持ってもらうことをねらっていたが、第2回目への参加者と第3回目への参加者とが必ずしも一致せず、当初のもくろみからやや外れたかっこうとなった。また、講義の後は、受講生による話し合い 討議の予定であったが、活発な意見交換までには至らなかった。

< 受講生の感想 >

ゴミを減らすためには、まず消費者が不必要なもの、地球に良くないものを買わない、又、業が作らないようにするのが第一歩だと思う。ex、タバコ、パックの箱(プラスチック、発泡スチロール)

大人になってもタバコを吸わない。

写真の動物たちがとてもかわいそうだった。

ペットボトルをあまり買わないようにする。

月に一回を限度。

将来、タバコを吸わない。ビール、酒を飲まない。

今日の話聞いて様々な事を教わり、考えたので、今日をきっかけに自分の色々なことを制して、少しでもリサイクル活動ができるように努力していきたい。

環境科学学部に進もうかな? と少し思っていたのだけれど、けっこう行こうと思いはじめている。

